

令和2年5月1日

埼玉県の卓球部員の皆さんへ

埼玉県高等学校体育連盟卓球専門部委員長
埼玉県立深谷商業高等学校 新井 誠喜夫

全国高等学校総合体育大会（インターハイ）中止について

卓球部員の皆さんこんにちは。現在皆さんは、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、学校の臨時休校が続いたり、部活動が禁止になったり、または国や県からの外出自粛要請など日々の生活に多大な影響を受け、大好きな「卓球」をすることがなかなかできない状況かと思えます。

4月26日には全国高等学校体育連盟（以下、全国高体連）から「令和2年度のインターハイは中止する」との衝撃的な発表がありました。インターハイが中止になるのは歴史上初めてのことです。高校生にとって令和2年度インターハイは一生に一回しかない夢の舞台です。このインターハイ出場を目指し、またインターハイでの活躍を夢見ていた選手の皆さんには、誠に残念でかける言葉が見つかりません。全国高体連も何とかインターハイを開催できないか検討していましたが、今の状況では、安心・安全な大会運営の確保は難しく、何よりも一番大切な人の命を守るということを最優先に考えなければなりません。このような観点からすると中止はやむを得ないという結論に至ったのです。

全国高体連の通達を受けて埼玉県高等学校体育連盟からは以下のような連絡がありました。「今後、県大会止まりの学校総合体育大会（以下、学総体）が開催できるかどうかを検討する」という内容でした。現在、卓球専門部としては、3年生が大会に出場できる機会を与えたいと考えています。例えば「県大会止まりの学総体の開催」、「3年生が独自に出場することができる大会」、「3年生の学年別大会」等、様々なことを検討している最中です。3年生が大会を行わないまま部活動を引退することは避けたいと考えています。

しかし最悪の場合、3年生はこのまま部活動を引退（大会なし）するという可能性もあります。やり場のない怒りや落胆を感じるのも当然のことだと思います。それでもあえて3年生の皆さんにお願いしたいことがあります。それは投げやりな気持ちにならないでほしいということです。高校卒業後も卓球を続けようと思っている人は、今できることを一生懸命やりましょう。たとえ卓球台でボールを打つことができなくても必ず卓球の役に立つことはあるはずです。また、今後も卓球を続ける人も高校生で競技生活を終える人も、卓球を通じて培った技術や友情、チームワークを自分自身の成長に目を向けてほしいと思います。これまで頑張ってきたことは決して無駄ではなく、これからの皆さんの人生に必ずや生かされていくものだと思います。

「疾風勁草（しっふうけいそう）」という言葉があります。これは「激しい風が吹いて、初めて強い草が見分けられる。困難に遭って初めてその人間の本当の価値、本当の強さが分かる。」と言う意味です。風の無い日は、強い草も弱い草も区別が付きません。しかし、ひとたび疾風（強い風）が吹き荒れると、強い草はそれに耐え立っているが、弱い草はとたんに伏せてしまいます。疾風を受けて初めて強い草の真価が発揮される訳です。困難に出会い、逆境に陥ったときに初めてその人の真価が発揮されるということです。

私自身も高校生の時は皆さんと同じで卓球が大好きでした（もちろん今でも大好きです）。部活小僧でした。今の私があるのは「卓球」というスポーツに巡り合えたからです。「仲間」、「思い出」、「人生」等、いろんなことを卓球から学ぶことができました。いつの日か思いっきり卓球ができる日は必ず戻ってきます。またみんなと一緒に笑って卓球場で再会できる日は必ず戻ってきます。皆さんの大好きな卓球、愛してやまない卓球を決して諦めないでください。卓球が早くやりたいという純粋な気持ち、スポーツの力を信じて頑張っていきましょう。

この新型コロナウイルスに打ち勝って、一日でも早く普段の生活、学校生活そして部活動が再開できるようになり、大会等でまた皆さんとお会いできる日を楽しみにしております。